福形泰緒（号泰賢）

◎　業績及び経歴

昭和40年、高野町に生まれる。祖父美延氏・叔父崇男氏に師事、また高野町杖ケ薮にて西浦春千代氏・宮本文夫氏の指導を仰ぎ、位牌製作の修行を積み、現在に至る。

江戸時代に杖ケ薮で産業として始まった位牌製作は、職人によって脈々と受け継がれ、やがて「杖ケ薮流」といわれる流派に実を結ぶ。一方、高野山の仏師らも位牌製作を手掛けるようになり、「高野流」といわれる流派も誕生した。上記の二流派で部材割付や部材名称などを異にする部分もあるが、技術的には共通点も多い。

氏は、西浦・宮本両氏に「杖ケ薮流」、祖父であり師の美延氏より「高野流」の指導を受け、二流派の伝統技法を継承した国内で数少ない職人である。

高野位牌製作では、木地彫刻、下地、塗り、金箔という各工程を、専門の職人が分業し、伝統の技術で仕上げていく。

氏は製図から始め、材料となる木材の選定を行い、手作業による製材・成型の後、彫刻を施し、精緻な作業を一貫して一人で行う。

一般家庭でお祀りする塗位牌の素地彫刻はもとより、高野山真言宗総本山金剛峯寺及び寶壽院・山内各塔頭、また真言宗に限らず国内外の寺院等に収める白木永代位牌（尊牌）、位牌・仏像等を安置する厨子の製作・修復、さらには文化財の修復に至るまで幅広い技術を有している。

位牌製作技術の継承は、親方から弟子への口伝によることが伝統的であったが、氏は、図面や映像で記録し、技術の保存・継承を行っている。

このように、熟練の技を持った技術者としてだけでなく、伝統的な製作技法を後世に引き継ぐために非常に重要な役割を果たしているその功績は多大である。

職　　種：位牌製作

住　　所：和歌山県伊都郡高野町

生　　年：昭和40年